

IAUD Newsletter vol.7 第7号(2015年3月上旬号)目次

- 1. IAUD 総裁 瑠子女王殿下からのお言葉.....1
- 2. 「48時間デザインマソン in 東京」開催報告.....2
- 3. メディアの UDPJ サインの事例研究会開催報告.....10

IAUD 総裁 瑠子女王殿下からのお言葉

「第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島&東京」を終えて

「第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島&東京」にご臨席された総裁の瑠子女王殿下より、これからの国際会議や IAUD へのご提言を頂戴しましたので掲載いたします。

父(故寛仁親王殿下)から、「100%の障害者も 100%の健常者もいない」と小さいころから私は聞かされて育ちました。その考えに私も賛同しており、受け継がなければいけないと思っております。

この国際ユニヴァーサルデザイン会議は、企業や団体の枠組みを超えて、有識者が問題点を持ち寄り、話し合い、技術を結集させて良いものを作り、後世に伝えていく場であると思います。

そして、国際ユニヴァーサルデザイン協議会は、会議中に発表された現在のユニヴァーサルデザインの取り組みを行政に伝えるのが役目だと思います。

ぜひ若い世代の方々が、ユニヴァーサルデザインに関して自分たちのやりたいこと、すべきことを発信し、行動していただければ、この会議が上下関係も飛び越えて、実現できるよい機会になるでしょう。ユニヴァーサルデザインの基本的な考えである、より安全で安心な暮らしという理念がぶれなければ、やりたいことをやってみればよいと思います。

国際ユニヴァーサルデザイン会議は同時通訳もあり、海外に発信できる場でもありますので、ぜひ有効に活用していただき、皆さまの考えを具現化していただきたいと思います。

私も、思いだけはだれにも負けないつもりですので、必要であればいつでも行動いたします。

今後も、この国際ユニヴァーサルデザイン会議が、若い世代の方々が発言しやすい、行動しやすい場になることを願っております。(「第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島&東京」クロージングセッションでのお言葉より引用)



国際会議でお話しされる瑠子女王殿下

東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて UD ができる事 特別ワークショップ「48 時間デザインマラソン in 東京」開催報告

IAUD のユーザー参加型特別ワークショップ「48 時間デザインマラソン in 東京」が、2014 年 9 月 9 日(火)から 9 月 11 日(木)の 3 日間、芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で開催されました。

今号の Newsletter では、運営したワークショップ委員会に 3 日間の様子と各チームの取り組みを報告していただきます。

「おもてなし」をテーマに

「48 時間デザインマラソン」は、ユーザー参加型の特別ワークショップです。UDの普及啓発と次世代のUDを担うリーダーやデザイナーの人材育成、さらには新たなデザイン開発手法を探求する学びの場とする等の目的で、2004 年からフィールドリサーチと体感型として行われてきました。

第 9 回目の今回は、A から F の 6 チーム編成による計 53 名が参加し、芝浦工業大学のご協力を得て開催されました。

テーマは、「おもてなし—未来を繋ぐ 街を繋ぐ そこに住まう人の心を繋ぐ」。2020 年のオリンピック・パラリンピック開催を目指して、UD が行える事を探りました。



芝浦工業大学芝浦キャンパス

4 つのステップで行われたワークショップ

1 日目: 9 月 9 日 火曜日

Step 1

09:30~10:45 芝浦工業大学芝浦キャンパス集合

事前ミーティング(チームリーダー、ユーザーのみ)

10:45~12:00 参加者全員集合、開会式

今回のテーマとユーザー参加型ワークショップの狙いを共有

12:00~13:00 チーム会議

自己紹介及び現地調査の場所や移動手段などについて入念に検討

13:00~18:00 フィールドリサーチ

ユーザーと共に歩き、生活シーンでの普段見えない課題を発見する



開会式の様子



Step 2

18:00～20:00 課題からUDの議論

フィールドリサーチで明らかになった気づきや課題を検証する



2日目:9月10日水曜日

Step 3

09:00～21:00 チーム作業



3日目:9月11日木曜日

Step 4

09:00～11:30 プレゼンテーション準備

13:30～15:30 開会式、公開プレゼンテーション



18:00～20:30 ワークショップ振り返り 懇親会(会場:品川)

各チームの参加メンバー及び発表内容の紹介

Aチーム

- ◎松林 景子 富士ゼロックス(株)
 鶴崎 健太郎 コクヨファニチャー(株)
 高村 遵 ブラザー工業(株)
 曾我 佑 (株)日立製作所
 五十嵐 陽子 積水ハウス(株)
 泉 聡太郎 ユーザー
- 高本 康明 運営サポーター
 (富士通(株))
- 鈴木 健吾 学生ボランティア
 比江島 彬 学生ボランティア



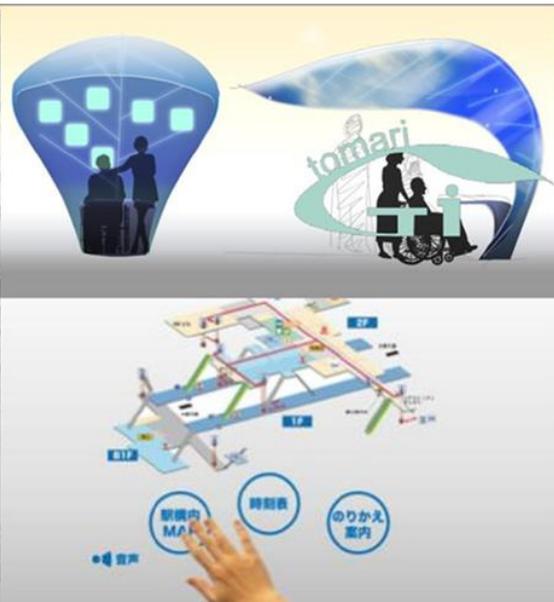
ユーザープロフィール: 泉 聡太郎

21歳の時にバイク事故で脊髄損傷し車いす生活に。現在は、多摩美術大学で自身がデザイナー兼ユーザーとなり、プロダクトデザインをしています。

大学時代の趣味はドライブ、ツーリング。「自分でやりたい」という思いが強い。今回はユーザーとしてではなく、デザイナーとしても参加。



CONCEPT: スムーズに動き／止まれる 都市の“とまり木”



インタフェース

Inside : シンプルな情報検索 (MAP、時刻表、のりかえ案内・・・)

Outside : 自然な情報提示 (天気、時刻、ニュース・・・)

Bチーム

- | | |
|---------|-----------------------|
| ◎大津寄 信二 | サンデン(株) |
| 中林 大昂 | TOTO(株) |
| 飯田 紫乃 | ブラザー工業(株) |
| 中島 円 | 富士通エフ・オー・エム(株) |
| 唐沢 博英 | 積水ハウス(株) |
| 芹澤 和也 | ユーザー |
| 今井 美希 | 運営サポーター
(トヨタ紡織(株)) |
| 大石 遊 | 学生ボランティア |
| 牧野 貴大 | 学生ボランティア |



ユーザープロフィール: 芹沢 和也

事故の後遺症で四肢麻痺。

できること: 腕はあがる、たたく、はらう、ひっかける、軽く押す、かじる。

できないこと: 胸から下が動かせない、指先は使えない。自律神経の調整ができないため体温調整が不自由。



CONCEPT:そこは海辺へ近づけなかった人が水との視覚を共感し、楽しむ場。
人と海が触れ合う新しい場所



Cチーム

- ◎谷口 陽子 コクヨファニチャー(株)
 康 景ティン (株)東芝
 赤堀 将士 トヨタ紡織(株)
 藤山 遼太郎 (株)リコー
 横尾 基成 積水ハウス(株)
 山田 崇仁 ユーザー
- 一ノ渡 靖 運営サポーター
 (富士ゼロックス(株))
- 柴田 直也 学生ボランティア
 西山 凌 学生ボランティア

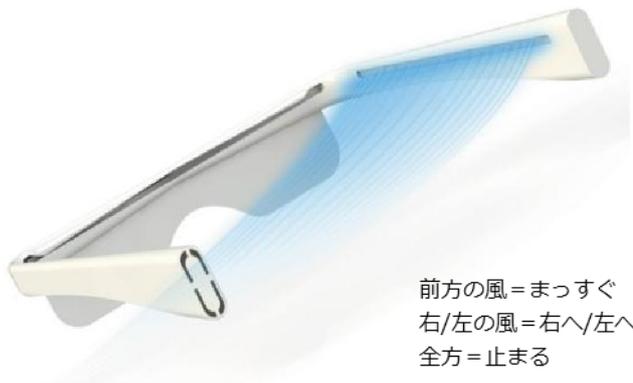


- ユーザープロフィール: 山田 崇仁
 職業: 富士ゼロックス(株)
 ヒューマンインターフェイスデザイン開発部
 障害の程度: 全盲
 趣味: グランドソフトボール
 スーパーガールズ



CONCEPT: 行きたい場所は、風が教えてくれる。「ぶらり一人歩きをオールユーザーに」

WIND GUIDE PERSONAL



WIND GUIDE PUBLIC



Dチーム

- ◎小松 佑一朗 (株)LIXIL
北川 大輔 NEC マネジメントパートナー(株)
陳 ウテイ コクヨファニチャー(株)
茂木 俊介 トヨタ自動車(株)
白根 龍一 (株)リコー
岡村 道夫 ユーザー
- 藤木 武史 運営サポーター
(コクヨファニチャー(株))
- 有川 周作 学生ボランティア
田島 若奈 学生ボランティア



ユーザープロフィール: 岡村 道夫

車椅子歴 26 年。
事故で脊髄損傷を負い腰から下が麻痺。
普段は自分で車を運転して移動。
お酒が大好きで、仕事終わりによく仲間を連れて居酒屋に。
日頃より障害者に自立心、自立力をつけてほしいと思っている。
障害者の働く場所を作るために会社経営。



Title: 買い物に寄り添う荷物サポートロボット“BUDDY”

フィールドリサーチ: 渋谷(ヒカリエ～CONRAN SHOP～D&D department) から
品川シーサイド(AEON)

「障害を持つ人ももっと世の中に出ていくべき」→出掛け先となりやすい買い物にフォーカス



フィールドリサーチでの発見:

買い物のカート移動の際に、片手で思うように進められない、取り回しがしづらく、あちこちを持つ、片手が塞がって思うように進まないなど、“思い通りの買い物ができない”ことに気づく。

Eチーム

◎花岡 大輔	日産自動車(株)
若林 宏誌	富士通エフ・オー・エム(株)
孫 永一	(株)東芝
山田 陽介	トヨタ自動車(株)
及川 史織	富士ゼロックス(株)
伊敷 政英	ユーザー
松岡 美紗	運営サポーター (コクヨファニチャー(株))
浜松 伸弥	学生ボランティア
渡邊 晃成	学生ボランティア



ユーザープロフィール:伊敷 政英

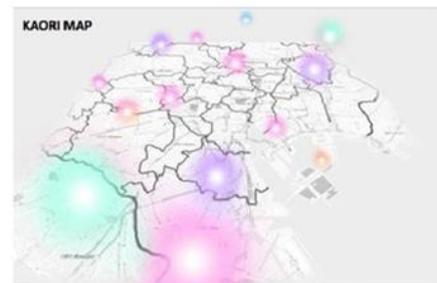
弱視の視覚障害。

コーヒー、ももいろクローバーZ、お酒が大好き。

ウェブアクセシビリティのコンサルタント。

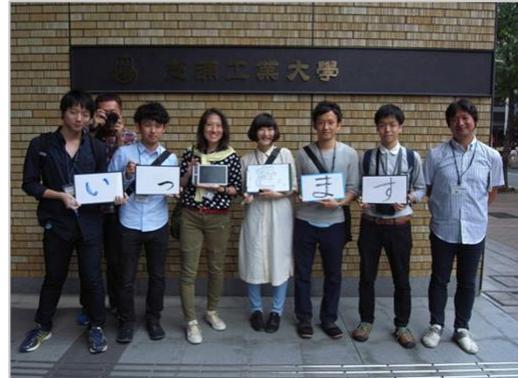


CONCEPT: 香りと巡る。香ると巡る。



Fチーム

- | | |
|--------|---------------------|
| ◎椎野 友広 | 三菱電機(株) |
| 菅井 洋 | (株)本田技術研究所 |
| 内田 久美子 | TOTO(株) |
| 高橋 延忠 | (株)岡村製作所 |
| 室園 晶子 | ユーザー |
|
 | |
| 井内 育生 | 運営サポーター
((株)リコー) |
| 松尾 俊基 | 学生ボランティア |
| 大沢 拓也 | 学生ボランティア |



ユーザープロフィール: 室園 晶子

聴覚障害者。
山登り、波乗り、スキー好き。
アグレッシブでとても魅力的な方。
デザインにも精通しており、このデザインワークでも的確なアドバイスをたくさん頂きました。



CONCEPT: 人がつながるシンボルへ。



2020 年は「おもてなし」サインシステムを構築し世界に発信へ 活動報告:メディアの UDPJ サインの事例研究会開催



熱心に講義に聞き入る参加者

メディアの UDPJ は、これまで取り組んできた 2 つのテーマ「色」「文字/書体」の要素を多く含む「サイン(看板)」に着目し、2014 年度は UD 視点でサインをとらえ、新たな社会的課題を見つけ出すことに取り組んでいます。

そこで、同 UDPJ は 2014 年 9 月 18 日(木)に、NTTデータINFORIUM豊洲イノベーションセンター(東京・豊洲)において、株式会社ジーエー・タップ代表取締役社長の定村俊満氏を講師に事例研究会を開催しました。

この研究会は、今後フィールドワークや調査を進めるに当たり、経験や実績の多い企業経営者にお話を伺う事で、より有効な活動にする事を狙いとしており、通常の定例会とは別に移動空間 PJメンバーなども加わり、計 14 人が参加しました、

今号の Newsletter では、同 PJ メンバーの平山裕一氏に研究会の報告をしていただきます。

定村俊満氏と株式会社ジーエー・タップの紹介



講師の定村俊満氏

定村氏は株式会社ジーエー・タップの代表取締役社長であるとともに、公益社団法人日本サインデザイン協会(SDA)の会長も務めています。

同社は福岡市に拠点があり、企業や社会の「価値を高める」ことを目標とし、「空間デザイン」と「情報デザイン」からアプローチして仕事を進めています。

株式会社ジーエー・タップ
Think And Produce

開発事例①福岡市営地下鉄七隈線

ジーエー・タップ社の UD 視点での仕事として注目されたのが、「福岡市営地下鉄七隈線のデザイン」です。

開発が始まった 1995 年当時は、まだ「UD=ユニバーサルデザイン」の言葉もない時期でした。

この仕事が高い評価を得た要因は、全 16 駅の「トータルデザイン」に取り組めた事です。

これにより、土木設計段階から UD 視点で開発を進めることができ、ホームの直線化による車両とホーム



具体的事例を紹介する定村氏

の隙間を 50mm にする事や、当時ではまだ少なかったホームドアを設置する事による安全性の確保ができました。

また、車イス利用者などの移動制約者や、視覚障害者などの情報制約者に対する配慮として、最短距離で改札と乗降ができるエレベーターと優先車両配置を全 16 駅で可能にしました。

さらに、センサー技術による「音サイン」なども積極的に開発し、実現しました。

ガラスを多用した空間設計で、明るく広々感のある駅空間を創造し、誘導性を考慮したカラーリングや駅の個性を表現する素材やマークなどの情報デザイン開発により、温かみのある UD 配慮の地下鉄とする事が出来ました。

【福岡市営地下鉄七隈線(駅舎デザイン開発 1995~2005)】

1995 年 3 月にトータルデザイン開始、2005 年 2 月に開業。

内閣府バリアフリー化推進功労者表彰、SDA 日本サインデザイン協会賞大賞など受賞。



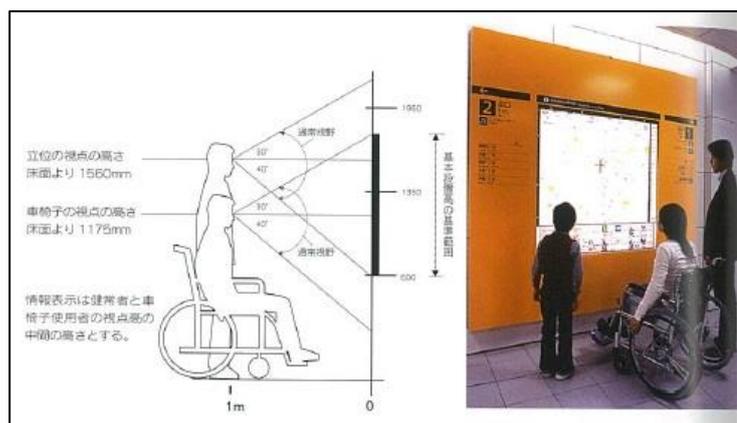
↑ 操作スイッチは壁から独立し、左右に配置する事で、車イスでも使い易くした。



↑ 駅舎設計段階から取り組む事で、優先車両とエレベーターの最短配置を実現。



↑ ホームを直線に設計する事で車両との隙間は 50mm を実現。



↑ サイン設置高を 1175(車イス視点)~1560mm(立位視点)の範囲とし、見やすさを両立させた。

開発事例②都市とサイン

現在、SDA では東京都のある地区のサイン環境調査を行っています。

都市サインには「商業サイン」と「公共サイン」があり、商業サイン(屋外広告物)の景観的なコントロールの進め方としては下記の方法があります。

- ① 景観条例＝大きさ、数量の規制
- ② 景観協定＝さらに細かい種類の規制
- ③ 景観ガイドライン＝デザインの誘導
- ④ 景観審査＝デザイン指導

「商業サイン」は、野放しではその街の品位を低下させる事にもなり得ますが、ニューヨークのタイムズスクウェアの様にその一画だけ「商業サイン」を競わせることにより、その街らしい個性の表現も可能です。

「公共サイン」においては、現状の鉄道駅は 5 言語(日、英、中(簡体)、韓、ピクトグラム)表示が基本ですが、2020 年のオリンピックまでに 7 言語表示という話もあります。

7 言語表示はサインとしては現実的ではなく、ピクトグラム(以下ピクト)表示が重要となってきます。JIS 化されているピクトは、85%の理解度であれば、言語による説明は必要が無いとされています。

開発事例③交通施設サイン

「交通施設サイン」については、事業者間で異なったルールにのっとりたピクトが採用されています。

各交通機関でのピクトによる対応は以下のとおりです。空港から都市内が課題となっています。

海外空港→乗継海外空港→成田/羽田空港:ISO など
国内空港→国内空港:JIS(羽田では JIS では無い情緒的ピクトも有り)
国内空港鉄道駅→都市内鉄道駅:事業者ごとのルール

特に東京は地下鉄と私鉄、JR の路線図が複雑で、東京以外の方は分かりづらくなっています。また、地下鉄は駅に番号を付け記号化していますが、その他の鉄道も計画が進んでいません。

【JR 西日本九州新幹線博多駅サイン開発(2011)】

第 45 回 SDA 日本サインデザイン大賞・経済産業大臣賞など受賞。

新幹線の競合相手は航空機であり、出発から到着までのトータルな時間をいかに少なくするかが課題であり、新しいサインシステムにその解決が求められていました。

博多駅は JR 九州他、関わる事業者が複数であるため、以下のようなサインのルールの統一が課題でした。

名称の統一(博多口、筑紫口など)

- ① ピクトの統一
- ② カラーコードの統一

- ③ 情報掲載基準の統一
- ④ 外国語表示の統一
- ⑤ 地図の統一
- ⑥ サインの統一

そこで、ジーエー・タップ社は上記の課題を解決し、シームレスな情報提供による UD 視点の新幹線乗り場づくりを実現しました。



←入口＝青、出口＝黄色、乗換＝赤の LED のカラーゲートで、迷わず進めるシステムを実現。

開発事例④福岡銀行の UD

福岡銀行では、“すべての人に使いやすく心地よい銀行”を目指した店舗づくりを進めており、ジーエー・タップ社は本店・支店約 180 店舗を UD 視点でリニューアルしました。



←障害者も健常者もストレスなく利用できる店舗を実現するために、音声案内付き触知案内板、身体負担を軽減する階段手摺、車いすでも利用しやすい ATM コーナーや窓口、座って記入のできる記帳台等、利用者の様々な条件に配慮して空間や装置をデザイン。

蓄積していく Stock の幸福を求めると UD を考えるべき

最後に、定村氏から提言を紹介します。

サインの UD を推進していく中で最近思う事は、企業経営においても「短期的課題＝利益の確保」である一方、「長期的課題＝企業の信頼」が重要であり、サインにおいては「短期的課題＝移動の効率化」であり「長期的課題＝まちの優しさ」であるという事です。

Flow のデザイン……Flow の幸福(宝くじに当たった、美味しいなど)
 +
 しかし 富＝幸福ではない
 Stock のデザイン……Stock の幸福(家族・コミュニティの絆)

一過性の Flow の幸福ではなく、蓄積していく Stock の幸福を求めべく UD を考えるべきであると思います。

それには「コミュニティの絆」が大切で、そこから「社会の優しさ」が生まれるはずで

2020 年東京オリンピック・パラリンピック(以下オリパラ)は、Flow ではなく Stock を目指すべきです。

1964 年の東京オリンピックでは、首都高速道路と新幹線という Stock が残り、その後の日本の経済発展に貢献しました。

2020 年は日本の「おもてなし」のサインシステムを構築し、東京オリパラ後も、人に優しい都市・社会の事例として世界に発信すべきです。

2020 年オリパラに向けて、UD 視点におけるサインの課題抽出へ

定村氏の分かり易い説明で、ジーエー・タップ社のサインのデザイン開発事例が良く理解できました。

公共や交通、金融関連施設の UD 視点での開発推進の進め方と、それに伴う様々な壁に立ち向かう苦労話が、今年度のメディアの UDPJ の研究取組テーマの「サイン」において、非常に役立つ内容でした。

また、2020 年オリパラに向けて、UD 視点におけるサインの課題抽出と対応検討において、非常に有効な交流であったと感じました。(了)

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。

ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2015 年 3 月末発行予定

特集: IAUD アワード 2014 受賞の取り組み紹介

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net